

主要産地における平成27年産水稻の生育状況等について 第8報 (7月21日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成27年7月22日)

道府県	生育状況等		
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	
北海道	(生育)	<p>(全道) 生育はやや遅れている。(遅3日)。生育に地域差が見られる。草丈は58.6cmで平年より短く、葉数は10.3枚で平年並。葉数は667本/m²で平年並。(北海道農政課 7月15日現在)</p> <p>(空知) 7月上旬の低温により生育は遅れた。(遅3日)。草丈は80.7cmで平年よりやや短く、葉数は10.5枚で平年並、葉数は654.7本/m²で平年並。(空知総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(石狩) 7月上旬の低温により、生育は遅くなった。(遅1日)。草丈は55.1cmで平年より短く、葉数は9.8枚で平年並、葉数は734本/m²が多い。(石狩総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(後志) 日照不足の影響もあり生育はやや停滞気味(遅1日)。草丈は58.5cmで平年よりやや短く、葉数は10.0枚で平年並、葉数は654本/m²で平年並。幼穂形成期は7月4日(後志総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(胆振) 生育はやや遅い(遅3日)。上旬に幼穂の形成は遅れており、下旬に止葉を迎える。草丈は49.5cmで短く、葉数は10.0枚で平年並、葉数は697本/m²が多い。(胆振総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(日高) 生育は平年並より進捗。幼穂形成は7月上旬に終了。草丈は55.2cmで短く、葉数は10.1枚で平年並、葉数は667本/m²でやや多い。(日高振興局 7月15日現在)</p> <p>(渡島) 生育は平年よりやや早く推移(早4日)。草丈は53.8cmで平年並、葉数は9.8枚で平年並、葉数は777本で平年並。幼穂形成期は7月6日。(渡島総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(檜山) 7月上旬の低温の影響で生育はやや遅れている(遅2日)。草丈は51.2cmで短く、葉数は10.0枚でやや少なく、葉数は674.6本/m²で平年並。(檜山振興局 7月15日現在)</p> <p>(上川) 生育は、平年より遅れて推移している(遅5日)。草丈は58.7cmで短く、葉数は10.5枚で平年並、葉数は678本/m²で平年並。幼穂形成期は6月28日で、(上川総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(留萌) 生育は低温、日照不足により遅延であり、平年に比べやや遅れているが、南部では8日以降の晴天によりやや持ち直している(遅3日)。幼穂形成期は7月2日。草丈は57.1cmで短く、葉数は10.4枚で平年並、葉数は544本/m²で平年並。(留萌振興局 7月15日現在)</p> <p>(オホーツク) 生育は平年並(遅1日)。幼穂形成期は7月3日。草丈は61.8cmでやや短く、葉数は9.0枚で平年並、葉数は589.9本/m²で平年並。(オホーツク総合振興局 7月15日現在)</p>	<p>・7月のいもち病の発生時期はやや早、発生量はやや多い予報 (北海道病害虫防除所 6月30日公表)</p>
青森	(生育)	<p>・生育状況(7月10日現在)</p> <p>(黒石) 「つがるロマン」の生育状況は、草丈は54.2cmで平年より6.9cm短く、株当たり葉数は34.5本で平年より3.1本多く、葉齢は10.1葉で平年より0.4葉少なかった。「青天の霹靂」は「つがるロマン」と比べ、草丈が8.7cm長く、株当たり葉数は0.8本少なく、葉齢は0.9葉少なかった。穂首分化期の到達日は、「つがるロマン」が7月3日、「青天の霹靂」は7月1日で、「つがるロマン」は5年間に比べて1日早かった。</p> <p>(十和田) 「まっしぐら」の生育状況は、草丈は61.5cmで平年より3.9cm短く、株当たり葉数は22.0本で平年より2.9本少なく、葉齢は10.3葉で平年より0.2葉多かった。穂首分化期の到達日は7月1日で、平年より3日早かった。</p> <p>(青森県産業技術センター農林総合研究所 7月10日現在)</p> <p>・6月30日現在の生育は、草丈及び葉数は平年並から上回っている。葉数からみた生育の進捗は、「つがるロマン」、「まっしぐら」とも平年より1程度進んでいる。</p> <p>つがるロマン(全県8地点)は、草丈45.4cm(平年比103%)、株当たり葉数24.1本(平年比118%)、葉数9.8枚(平年並+0.5) まっしぐら(全県13地点)は、草丈51.5cm(平年比103%)、株当たり葉数23.4本(平年比122%)、葉数9.2枚(平年並+0.4) (青森県 7月3日付)</p>	<p>・東北では、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・7月の葉いもち及び稲こじ病は平年並と予報。コバネイナゴは平年並、アカヒゲホソミドリカスミカメ及びフタオビコヤガはやや多いと予報。 (青森県病害虫防除所 7月2日公表)</p>
岩手	(生育)	<p>・生育概況(7月15日現在)</p> <p>農業研究センター(北上)では、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも、草丈は平年より短く、葉齢は平年より少ないが、葉数は「ひとめぼれ」は平年よりやや多く、「あきたこまち」は平年並となっている。葉色(SPAD値)は、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも平年並となっている。幼穂形成期は、「あきたこまち」は7月1日(平年と同日)、「ひとめぼれ」は7月15日(平年より遅)に達した。</p> <p>東北農業研究所(磐城)では、「いわてっこ」の草丈は平年より短く、葉齢は平年より少ないが、葉数は平年を上回っている。葉色(SPAD値)は概ね平年並となっている。幼穂形成期は、7月10日(平年より1日遅)に達した。</p> <p>(岩手県農業研究センター 7月17日付)</p>	<p>・県中南部で、葉いもちの発生が拡大している圃場がみられる (岩手県病害虫防除所 7月16日公表)</p> <p>・東北では、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・7月上旬の畦畔すくい取り調査における発生圃場率は、アカヒゲホソミドリカスミカメでは過去10年間で最も高いもの、主要加害種であるアサシジミカメでは平年より低い (岩手県病害虫防除所 7月13日公表)</p> <p>・7月のいもち病、斑点米カメムシ類の発生はやや多いと予報 (岩手県病害虫防除所 6月30日公表)</p>
宮城	(生育)	<p>・7月10日現在、県内生育調査区8割で確認され、幼穂長の平均は3.6mm(平年並+1.7mm)となったことから、幼穂形成期(県全体の平均)は7月6日頃と見込まれ、平年に比べ4~5日早まっている。出穂期(県全体の平均)は8月1日頃になる見込み。生育については、草丈が59.5cm(平年比96%)、1m当たりの葉数が54本(平年比99%)、葉数が10.8枚(平年並)であった。(宮城県 7月13日付)</p> <p>(大河原) 7月10日の管内の生育調査は、葉数はやや多めで、草丈、葉数は平年並。葉色は、やや低い。平坦な地域で田植の早かった中生品種は、幼穂形成期(幼穂長1~2mm)になっていた。平坦地の中生品種の出穂期は7月31日頃と推測される(7月6日現在)。(大河原農業改良普及センター 7月13日付)</p> <p>(仙台) 管内の水稻生育調査においては、最も早い品種で6月29日に幼穂形成期に達していることが確認された。7月10日現在の生育状況は、「ひとめぼれ」(3地点)の草丈は平年比97~101%、葉数は平年比107~110%、葉数は平年並-0.4~0.2枚、葉色(GM値)は平年比95.9~107.2%、「ササニシキ」(2地点)の草丈は平年比86~92%、葉数は平年比104~112%、葉数は平年並-1.1~0.8枚、葉色(GM値)は平年比97.9~106.9%。 (仙台農業改良普及センター 7月15日付)</p> <p>(大崎) 7月10日現在、草丈は若干平年を下回るほ場もあるが、ほぼ平年並。葉数は、平年を上回るほ場が多くなった。葉数は平年を下回っている。葉色は平年より1~4%下低くなった。幼穂形成期に達している。山間地域の「やまのしずく」でも7月12日に幼穂形成期に達したものとみられる。平坦地における中生品種の出穂期は8月1日ごろの見込み。 (大崎農業改良普及センター 7月13日付)</p> <p>(美里) 7月10日現在、移殖栽培の生育は早まっている。5月6日移植のひとめぼれの幼穂形成期は7月4日頃になった。出穂期は、平年よりも1日早い7月9日頃と見込み。北部平坦の中生品種の出穂期は、8月1日頃の見込み。直積栽培は、頭詰に草丈・葉数・葉数が揃っている。(美里農業改良普及センター 7月13日付)</p> <p>(栗原) 7月10日現在、草丈は平年並(平年比98%)、葉数はやや少なく(平年比94%)、葉数は平年より多く(平年並+0.4枚)、葉色は平年並(平年比101%)。生育は平年より4日程度進んでいる。5月4日および5月9日に移植したほ場では、7月中旬に減数分裂期になる見込み。5月18日移植のほ場では、まもなく幼穂形成期になる見込み。 (栗原農業改良普及センター 7月13日付)</p> <p>(穀米) 7月10日現在の生育調査は「ひとめぼれ(移殖栽培4地点)」の生育状況は、平年と比べて草丈・葉数は平年並~やや少なく、葉数は平年よりやや多く、葉色ほ場によりバラツキがあるが、前回の調査時より淡くなっている。 (穀米農業改良普及センター 7月10日付)</p> <p>(石巻) 7月10日現在、葉数は平年並~少なく(平年比99%~83%)、葉色は平年並~淡く、広刈(ひとめぼれ)調査ほを除いて期待葉色値を下回った。幼穂長は0.2~1.1mmで、播種・田植が平年より遅い陸田町(ササニシキ)ほ場を除いて平年を上回った。広刈・小松(ひとめぼれ)ほ場は幼穂形成期に達した。(石巻農業改良普及センター 7月15日付)</p> <p>(本吉) 7月10日調査の結果、生育のスピードは鈍化し、平年より3日程度の遅みとなった。気仙沼市と南三陸町の西生育調査ほとも平年と比較して、草丈・葉数は平年並、葉数はやや多くなっている。葉数は、平年と比較して、気仙沼市の生育調査ほ(ひとめぼれ)ではやや少なく、南三陸町の生育調査ほ(ササニシキ)では多くなっている。幼穂長は、気仙沼市(ひとめぼれ)で1mm、南三陸町(ササニシキ)で3.9mmとなっている。(本吉農業改良普及センター 7月13日付)</p> <p>(亶理) 6月10日調査(ひとめぼれ)の結果、葉数は前年を上回り、葉数も前年より多くなる傾向がみられる。田植後の気温が高く推移したことから、土壌の還元が進み、生わらや未熟した肥を施用した水田では還元障害による水稲の活着不良や生育抑制が見られる。(亶理農業改良普及センター 6月17日付)</p>	<p>・東北では、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・7月下旬までの葉いもちの発生時期はやや遅く(7月第4半旬)発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや多く、稲こじ病の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生時期は平年並(7/21~7/25)で発生量は多い予報 (宮城県病害虫防除所 7月7日公表)</p> <p>・注意報-斑点米カメムシ類の発生量が県内全域で多い予報 (宮城県病害虫防除所 7月3日公表)</p> <p>・7月の葉いもちの発生時期・発生量は平年並、コバネイナゴの侵入時期は平年並だが発生量はやや多い予報 (宮城県病害虫防除所 6月23日公表)</p>
秋田	(生育)	<p>(北秋田) 7月8日現在の生育状況は、草丈が短く(平年比97%)、葉数が多く(同比114%)、葉色が薄い(同比92%)状況。葉数から見た生育の進捗は、平年より1~2日程度早まっている。(7月10日付)</p> <p>(秋田) 7月15日水稻生育調査の結果は、「あきたこまち」で草丈60.2cm(平年比90%)、葉数553本/m²(同110%)、葉数11.3葉(同+0.3葉)、葉色(葉緑素計値)38.4(平年比95%) (7月17日付)</p> <p>(由利) 7月8日水稲生育調査の結果は、草丈は49.3cmで平年よりやや短く(平年比96%)、m²あたり葉数は654本で平年より多く(平年比114%)、葉数は10.1葉で平年並(平年並+0.1葉)となり、生育は順調。(7月10日付)</p> <p>(鹿角) 7月5日現在、草丈が48.4cmで平年よりやや短く、葉数は1m当たり741本で平年より多く、葉数は10.4葉で平年より0.5葉ほど進んでおり、葉色(SPAD値)は44.0で平年並。平年より水稻の生育は5日程度進んでいる。(7月14日付)</p> <p>(山本) 7月15日現在の生育状況は、草丈55.8cm(平年比85%)、葉数571本/m²(同109%)、葉数10.8(同並-0.3葉)、葉色39.9(同比95%)で、平年に比べ草丈は短く、葉数は多め、葉色は薄めとなっている。(7月17日付)</p> <p>(仙北) 7月15日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈66.8cmで短く(平年比89%)、葉数は596本/m²で多く(平年比116%)、葉数は11.1葉(平年並+0.1葉)で平年並、葉色(SPAD値)は39.9(平年比100%)で平年並となった。(7月17日付)</p> <p>(平鹿) 7月15日に行った水稲生育調査(あきたこまち11か所)の結果は、草丈が58.9cm(平年比91%)、葉数は636本/m²(平年比125%)、葉数11.2葉(平年並+0.3葉)、葉色40.6(平年比95%)で、草丈が短く葉数が多くなっている。葉数から見た生育は平年よりやや進んでいる。(7月17日付)</p> <p>(雄勝) 7月15日の定時点調査結果(あきたこまち8地点平均)では、葉数11.0葉(平年並+0.1)、草丈57.8cm(平年比91%)、m²あたり葉数640本(同122%)、葉色は41.5(同96%)となっている。(7月16日付)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>	<p>・東北では、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・7月の葉いもちの発生時期は平年並、発生量はやや多いと予報 紋枯病の発生は多く、斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予報 (秋田県病害虫防除所 6月25日公表)</p>

	生育状況等	
山形	<p>(生育) ・7月10日現在 平坦部「はえぬき」の生育は、平年に比べて、草丈、葉数、葉色は平年並だが、茎数は多い状況。幼穂の生育状況を見ると、「はえぬき」は2日程度、「つや姫」は1日程度早まる見込み。草丈は56.3cm(平年比98%)、茎数は707本/m(平年比111%)、葉数は10.5枚(平年並+0.1枚)、葉色は40.7(平年並-0.4)。 7月10日現在 「つや姫」の生育は、平年に比べて、草丈は短く、茎数は多く、葉数は並で、葉色はやや淡く指標値並。出穂は平年並からやや早まる予想。草丈は53.6cm(平年比92%)、茎数は566本/m(平年比107%)、葉数は10.1枚(平年並+0.0枚)、葉色は38.3(平年並-1.2)。 (オールやまがた米づくり日本一運動、県産米ブランド推進課 7月10日付)</p> <p>(最上) 7月10日現在、生育診断圃の生育条項は、平年に比べ草丈がやや短く、茎数が多い状況。葉数と葉色は、圃場によって差がみられる。移植時期や地域によっては生育のバラツキが大きい。出穂予想は、平坦部の「はえぬき」は8月6日(平年比-2日)、「つや姫」は8月11日(平年並)、中山間の「あきたこまち」は7月31日(平年比-2日)。 (県上総合支庁 7月15日付)</p> <p>(酒田飽海) 7月10日現在の生育診断圃の生育は、草丈、葉数は平年並、茎数は概ね確保されている。葉色はやや淡い状況。水田農業試験場(鶴岡市藤島)の幼穂調査による出穂予想は、中生晚品種(ひとめぼれ、はえぬき)は平年より1~2日、晩生品種(つや姫、コンヒカリ)は平年並の見込み。(酒田農業技術普及課 7月13日付) 7月10日現在の「つや姫」の生育は、草丈は平年並~短く、茎数は平年並~多く(600本以上あり)、葉数は平年並~やや遅く、葉色は平年並~淡い。(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月13日付)</p> <p>(鶴岡田川) 7月10日現在、茎数はやや多く、葉色は指標並に経過している。幼穂からみた出穂予想は、上清水は8月13日、櫻切は8月11日と、ほぼ平年並と見込み、管内のつや姫は、8月8日~8月13日に収穫期を迎える見込み。 (庄内総合支庁農業技術普及課 7月10日付)</p> <p>(東南村山) 7月10日現在の「つや姫」の生育状況は、葉色は濃い傾向にあり、出穂は平年よりやや早く8月10日前後と予想される。(村山総合支庁村山農業技術普及課 7月11日付) 葉数はやや多く、葉色も濃い状況。「はえぬき」(山形市長苗代)の生育は、草丈は平年比96%、茎数は平年比97%、葉数は平年並-0.5枚、葉色(SPAD値)は平年並+1.4。「つや姫」(山形市南石間)の生育は、草丈平年比109%、葉数は平年比98%、葉数は平年並+0.2枚、葉色(SPAD値)は平年並-0.5。7月1日現在、出穂期はやや早い予想。(村山総合支庁村山農業技術普及課 7月3日付)</p> <p>(西置賜) 6月30日現在、生育は2日程度進んでいる。草丈は平年並~やや短い、茎数はやや多い、葉数は平年並~2日程度早い、葉色は平年並~やや濃い。生育診断圃の「はえぬき」の生育は、草丈は平年比91~99%、茎数は平年比113~119%、葉数は平年並+0.0~0.2枚、葉色(SPAD値)は平年並-0.8~1.8。「つや姫」の生育は、草丈は平年比95~104%、茎数は平年比109%、葉数は平年並+0.1~0.3枚、葉色(SPAD値)は平年並+0.7~0.9。 (オールやまがた米づくり日本一運動直轄地域本部 7月3日付)</p> <p>(北村山) 6月30日現在、作付診断圃の全般的な生育は、草丈は平年並~やや長く、茎数はやや多く、葉数は平年より2日程度早く、葉色はやや濃い~濃い。「はえぬき」(村山市 平坦地)の生育は、草丈44.2cm(平年比107%)、茎数666本/m(同比117%)、葉数9.4枚(同左+0.4枚)、葉色(SPAD)42.3(同左+2.4)。 「あきたこまち」(尾花沢市中山間地)の生育は、草丈47.1cm(平年比116%)、茎数720本/m(同比167%)、葉数9.6枚(同左+0.7枚)、葉色(SPAD)40.5(同左-2.4)。(村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月3日付) 「つや姫」生育調査圃の生育状況は、6月30日現在、指標に比べて、草丈はやや短く、茎数は多く、葉色はやや濃い。葉数からみて、生育は2日程度早まっている。(村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月3日付)</p>	<p>・東北では、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・7月の葉いもちの発生量は平年並、稲こじ病と斑点米カメムシ類の発生量は多い予報 (山形県病害虫防除所 7月1日公表)</p>
福島	<p>(生育) ・6月30日現在の生育調査では、草丈が平年並から長く、茎数が平年並から多く、主穂葉数が平年並から多くなっている。5月15日補えの本部(郡山)では、草丈が平年より短く、茎数が平年より少なくなっている。 (福島県農林水産部 7月7日付)</p> <p>(郡山) 6月19日現在の23ほ場の調査結果では、平坦部では草丈が平年並、茎数は平年並だが、ほ場によってバラツキがみられる。湖南地区は草丈は平年並、茎数は平年より多くなっている。 (郡山市農作物生産対策協議会 6月19日付)</p> <p>(会津・喜多方) 天候にも恵まれたため、田植作業は平年より早かった。軟弱苗や高温により、植え痛みや葉先枯れなどの除草前による葉害が発生したほ場が散見されたが、その後、回復している。 (福島県喜多方農業普及所ほか 6月5日公表)</p>	<p>・東北では、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・斑点米カメムシ類が、水田畔で平年より多く確認されている。気温は平年並に推移すると予想されており、斑点米カメムシ類の活動が活発になると推測される。 (福島県病害虫防除所 6月30日公表)</p> <p>・イネミズウムシやイネドロオウムシの発生は、平年に比べてやや少ない状況。(郡山市農作物生産対策協議会 6月19日付)</p>
茨城	<p>(水戸市) 7月10日現在、出穂始及び幼穂長から予測される出穂期は、平年と比較して、5月1日に移植した「あきたこまち」で平年より2日、「コンヒカリ」で3日早い。平年と比べ、草丈は「あきたこまち」で短く、「コンヒカリ」でやや短い。茎数は「あきたこまち」でやや少なく、「コンヒカリ」で並。葉色は「あきたこまち」でやや淡く、「コンヒカリ」で並。5月11日に移植した「コンヒカリ」の幼穂長から予測される出穂期は、平年と比較して1日早い。平年と比較して、草丈はやや短く、茎数は並、葉色はやや淡い。 (7月14日付)</p> <p>(龍ヶ崎市) 7月7日現在、4月27日移植の「あきたこまち」は、出穂始が7月7日で平年より4日早く、出穂期は平年より4日早く見込まれる。幼穂の生育程度から予測される「コンヒカリ」の出穂期は7月22日であり、平年より3日早い。平年と比べ、草丈は両品種とも並、茎数は「あきたこまち」がやや多く、「コンヒカリ」が並、葉色は「あきたこまち」が濃く、「コンヒカリ」が並。「あきたこまち」の主穂葉数は平年より1枚程度少ない。5月7日移植の「あきたこまち」の出穂期は7月19日であり平年より1日早い。「コンヒカリ」は7月29日であり平年並。平年に比べ、草丈は両品種とも並、茎数は「あきたこまち」がやや少なく、「コンヒカリ」が並、葉色は「あきたこまち」が濃く、「コンヒカリ」は並。 (7月10日付) (茨城県農業総合センター農業研究所)</p>	<p>・関東では、綿葉枯病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・7月の葉いもちの発生量は、県下全域で平年並~やや多い予報。斑点米カメムシ類の発生量は、県下全域でやや多く、発生時期はやや早い予報。 (茨城県病害虫防除所 7月2日公表)</p> <p>・綿葉枯病ウイルスのヒメトビウカの保毒率が高いことから注意を喚起(茨城県病害虫防除所 6月18日公表)</p>
栃木	<p>(生育) ・7月6日調査結果 早期栽培(コンヒカリ、16か所平均) 草丈は平年並(平年比101%)、葉数はやや少なく(95%)、葉色は0.2淡く、葉齢はやや少ない(平年比-0.2)。幼穂長は0.42cmで幼穂形成期(出穂前20日頃)を過ぎており、これにより出穂期は7月26日頃(平年8月2日)と早まることが推定される。生育診断値(葉色×茎数)は平年比95%とやや小さいが、概ね生育診断指標値の適正範囲内と考えられる。 普通栽培(あさひの穂、4か所平均) 移植時の苗草丈は15.7cmで平年比109%とやや長く、葉齢は3.7で平年比+0.4、乾物量は3.01g/100本で平年比123%と重くなった。草丈は27.4cmで平年比89%と低く、葉数は176本/mで平年比61%と少ない。葉齢は6.9歳で平年より0.6歳少なく、葉色は5.2で平年より0.6濃い。葉齢から判断すると生育は平年より3日程度遅れている。葉色×茎数値は923で平年比69%と小さい。 (栃木県 7月9日付)</p>	<p>・7月下旬~8月上旬のいもち病の発生量はやや少なく、斑点米カメムシ類の発生量はやや多い予報。 (栃木県農業環境指導センター 7月17日公表)</p> <p>・関東では、綿葉枯病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・7月の綿葉枯病の発生量は多い予報 (栃木県農業環境指導センター 6月19日公表)</p>
埼玉	<p>(生育) ・7月6日現在の生育状況 (県内全般) 普通栽培の移植は、平年より早く作業が進み概ね終了した。早期、早稲栽培の生育は、センター内同様、草丈、葉数は概ね平年並で、高温により幼穂分化はやや早まっている。早期栽培の中干しも概ね順調に行われた。普通栽培は、活着は良好で初期生育も順調である。 (センター内生育相) 早期栽培(5月1日植 コシヒカリ)は、草丈、葉数とも平年を上回って推移していたが、移植60日後の調査では草丈、葉数とも概ね平年並となっている。葉位の進展は平年よりやや早く推移している。 早稲栽培(5月20日植 彩のかがやき)は、草丈、葉数とも概ね平年並に推移している。葉位の進展は平年よりやや早い。生育は概ね順調。 普通栽培(6月25日植 キヌヒカリ)は、苗の充実度はやや低かったが、活着は良好で、生育は順調。 (埼玉県農業技術研究センター 7月6日現在)</p>	<p>・関東では、綿葉枯病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・7月のいもち病の発生量はやや多、紋枯病及びヒメトビウカの発生量は平年並、綿葉枯病の発生量は多、ツマグロヨコバイの発生量は平年並、ニカメイチュウ及び斑点米カメムシの発生量はやや多、イネツトムシの発生量は少、セジロウカメシの発生量は少、イネオサムシの発生量はやや多の予報 (埼玉県病害虫防除所 6月29日公表)</p>
千葉	<p>(生育) ・4月20日頃に移植した「ふさおとめ」「ふさこがね」は、平年より5~7日程度早く出穂期を迎え、成熟期は8月6日頃からと予測される。梅雨入り以降は、平年と比較して気温が低く、日照時間が少ない時期があり、地域や品種による生育進捗の差が見られる。4月20日頃に移植した「コンヒカリ」は、早いところでは平年より5日程度早く出穂期を迎えると予測され、5月1日頃に移植した「コンヒカリ」は平年並の7月23日頃に収穫期を迎えると予測される。 (千葉県農林水産部 7月15日付)</p>	<p>・関東では、綿葉枯病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・向こう1か月間の発生量は、いもち病は平年並、紋枯病はやや多、イネドロオウムシは平年並、イネクロカメムシは多、ヒメトビウカは多、セジロウカは平年並、コバネイナゴは多の予報 (千葉県農林総合研究センター 6月10日公表)</p>

	生育状況等	
新潟	<p>・7月9日現在のコシヒカリの生育は、指標値に比べ草丈は並、葉数は多く、葉色はやや淡く、葉数の進みは並となっている。県内15か所の平均値(田植期の平均は5月13日)は、葉数11.0葉(指標値+0.1葉)、草丈60cm(指標値比92%)、葉数501本/m²(指標値比110%)、葉色(SPAD)34.4(指標値+1.3)。(新潟米)情報センター 7月13日付)</p> <p>・7月9日現在の生育状況は、コシヒカリ・こしいぶきとも、県全体では指標値に比べ、草丈は「並」、葉数は「多い」、葉色は「並」、葉数の進みは「並」、地域別には、葉数は長岡、南魚沼、上越で特に多く、葉色は新潟、養、三条、糸魚川で淡く、魚沼で濃い状況。出穂期は平年並みと予想。(新潟県農林水産部 7月10日付)</p> <p>(若 船)7月21日現在、草丈はやや短く平年並、葉数は平年並〜多く、葉数はやや早い、葉色は平年並(一部淡い)。生育が後ずれしたほ場や基肥一発ほ場では、草丈がやや長く、葉色が濃くなっている。各地で幼穂が確認されており、出穂期は平年より早い見込み。(ほ場間差大きい)。(計上農業普及指導センター 7月21日現在)</p> <p>(新発田)7月21日現在のコシヒカリは、草丈は77cmで指標比103%(並)、葉数は443本/m²で指標比111%(多)、葉数は12.5葉で指標値+0.9葉(多)、葉色は葉緑素計32.7で指標値-0.3(並)。指標値に比べ、草丈・葉色とも並であるが、葉数過剰な稲姿で緑色が濃んでいる。出穂期は平年に比べ2日程度早まっている。(新発田農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(新潟)7月21日現在、目標値と比べてコシヒカリの生育は、草丈は平年並、葉数は多く、葉齢は平年並、葉色は淡い。出穂期は8月4日頃の見込み。(新潟農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(新潟)7月9日現在のコシヒカリの生育状況は、指標値と比べて草丈はやや短く、葉数はやや少なく、葉色は淡いほ場が多い。5月5日田植えのほ場で、幼穂が確認されはじめており、出穂期は8月5日と予測。(新潟農業普及指導センター 7月10日付)</p> <p>(三条)7月21日現在、コシヒカリは、葉色の極端な低下速度が鈍りほほ横ばいだが、一部で低下が続いている。こしいぶきは、ほぼ指標値並の生育となっている。(三条農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>早生品種の生育は地域差・ほ場間差が大きい。出穂期は、ゆきん予報は7月26日、こしいぶきは7月26日、わたぼうしは7月22日、五百万石は7月21日と予想。(三条農業普及指導センター 7月1日付)</p> <p>(長岡)7月21日現在、こしいぶきの定点調査(長岡市鉢伏町5/11補え)の出穂期は7月26日と予想(平年差-2日)。葉数は指標値比99%と指標値並。コシヒカリ定点調査(7地点平均)は、指標値に比べ、草丈は101%と並、葉色値(SPAD)は指標値±0.0で並、葉数は117%と多い。(長岡農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(南魚沼)7月21日現在のコシヒカリの生育状況は、草丈は70cm(指標値比93%)でやや短く、葉数は482本/m²(同比123%)と多く、葉色はSPAD34.2(同差+0.7)で平年並、葉数は12.3葉(同差+0.9)でやや多い。幼穂の伸長がやや早まっていることから、出穂期についても1〜2日程度早まると見込まれる。(南魚沼農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(柏崎)7月21日現在のコシヒカリの生育状況は、指標値と比べ、草丈、葉数は平年並、葉色はやや淡い。葉色低下の大きいほ場がみられる。コシヒカリの出穂期は8月5日頃の見込み。(柏崎農業普及指導センター 7月22日付)</p> <p>(十日町)平田地域のコシヒカリの生育状況は、草丈は平年並〜やや短く、葉数は平年並、葉色はやや濃い〜やや淡い状況で、ほ場差が大きくなっている。出穂期は、平年より1〜2日早く、5月25日田植えで出穂期は8月4〜5日頃の見込み。(十日町地域振興局農業振興部 7月16日付)</p> <p>(上越)7月21日現在のコシヒカリの生育(指標値)は、草丈はやや長く(108%)、葉数は多く(128%)、葉数は多く(+0.9葉)、葉色は並(葉色値-0.2)。「こしいぶき」の生育は、葉数はやや多く、葉色は濃くなっている。(上越農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(糸魚川)7月9日現在、平年と比べて、草丈は短い、葉数は多い、葉色は淡い、早生品種、コシヒカリとも出穂期は平年と比べて1日程度早くの見込み。(糸魚川地域振興局農林振興部 7月10日付)</p> <p>(佐渡)6月30日現在のコシヒカリは、指標値に比べ草丈は平年並、葉数は多く、生育は平年並〜やや早い(2日程度早い)、草丈は48cm(指標値比98%)、葉数は584本/m²(同比115%)、葉数は10.0枚(同差+0.0枚)、葉色(SPAD)は36.8(平年差+1.2)。(佐渡農業普及指導センター 6月18日付)</p> <p>(魚沼)移植後の好天により、初期生育は順調。(北魚沼・魚沼農業普及指導センター 6月10日付)</p> <p>(巻)6月30日現在、草丈は指標比「やや短」、葉数は指標比「並〜やや早い」、葉数は指標比「並〜やや多」(ほ場間差あり)、葉色は指標比「並〜やや淡」(ほ場間差や個体間差も大きい)。早生品種は、幼穂形成期を迎えている。出穂期は、2日程度早まる予想。(巻農業普及指導センター 6月30日付)</p>	<p>・7月後半の葉いもち・紋枯病の発生量は平年並、穂いもち・穂こらじ病の発生量は平年並〜やや少、斑点米カメムシ類の発生量はやや多い〜多。ニカメイチュウ・セジロウカ・ツマグロヨコバエの発生量ははや少ない予想。(新潟県病害虫防除所 7月16日公表)</p> <p>・北陸では、いもち病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月14日公表)</p>
富山	<p>・生育観測ほデータ(7月21日現在)</p> <p>(コシヒカリ)草丈、葉齢は平年並、葉数は平年よりやや多く推移している。葉色は平年よりやや濃くなり、施肥体系別では、肥効調節のほとんどのほ場で前回調査時より濃くなり、分蘗のほ場では淡くなった。幼穂形成期は、平年並の7月13日となった。出穂期は、平年並みの8月4日頃と見込まれる。(てんたく)5月5日移植の出穂期は平年より3日早い、7月20日と見込まれる。成熟期は、平年より3日程度早い、8月25日頃と見込まれる。(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月21日付)</p> <p>・直轄情報(7月17日現在)</p> <p>(生育)・湛水よ中直播栽培(カルパー)生育は、草丈、葉数、葉齢は平年並、葉色はやや淡く推移している。幼穂形成期は、平年並の7月17日、出穂期は、平年並の8月7日頃と見込まれる。</p> <p>・湛水表面播栽培(鉄)葉齢は昨年よりやや遅れており、草丈はやや短く、葉数、葉色は平年並に推移している。幼穂形成期、出穂期は、それぞれ昨年より2日程度遅い7月20日頃、8月10日頃と見込まれる。</p> <p>・乾田直播栽培近年に比べて葉齢が遅れており、草丈は短く、葉数は多く、葉色はやや淡い。幼穂形成期と出穂期は、それぞれ近年並の7月21日頃、8月12日頃と見込まれる。(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月17日付)</p>	<p>・北陸では、いもち病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・7月のいもち病、紋枯病、穂こらじ病の発生量は多く、紋枯病の発生時期は早い予報。ニカメイガの発生量は多く、斑点米カメムシ類は多い〜平年並。その他の害虫の発生量は少ない〜やや少ない予報。(富山県農林水産総合技術センター 7月1日公表)</p>
石川	<p><7月17日調査結果></p> <p>出穂期 ゆめみづほの出穂が加賀地域、能登地域ともに見られ、近年より3〜5日程度早まった。能登ひかりは近年並〜3日程度早まる見込み。コシヒカリの出穂期は、加賀地域で平年より2〜4日程度、能登地域は平年並から3日程度早まる見込み。</p> <p>草丈 コシヒカリで平年比97%(加賀地域98%、能登地域97%)と平年並、ゆめみづほは、近年比98%(加賀地域99%、能登地域97%)と近年並。</p> <p>葉数 コシヒカリで平年比103%(加賀地域104%、能登地域101%)と平年並、ゆめみづほで近年比102%(加賀地域105%、能登地域94%)と近年並。</p> <p>葉色 コシヒカリの葉色は、加賀地域、能登地域とも平年並。(石川県農林総合研究センター 7月17日調査)</p>	<p>・北陸では、いもち病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・7月中旬から下旬の斑点米カメムシ類の発生量は多く、穂いもちの発生量はやや少く、紋枯病の発生量はやや多い予報。セジロウカ、コブメイガは平年並、ツマグロヨコバエははや多く、フタオビコバエははや少ない予報。</p> <p>・注意報一雑草地における斑点米カメムシ類の発生は、平年の3.3倍と多い。特に、飛羽性カメムシ類は平年の3.8倍と多い。今後、活動が活発になると推測される。(石川県農林総合研究センター 7月8日公表)</p>
福井	<p>・7月16日水稲調査の結果は、コシヒカリは草丈が短く、葉数は平年並で、幼穂形成期もほぼ平年並の7/12日、ハナエチゼンが出穂期を迎えており平年並〜4日早い。(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月17日付)</p>	<p>・北陸では、いもち病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・水田周辺雑草地における斑点米カメムシ類の生息密度は、平年、前年より非常に多く、特にカスミメムシ類の発生が多くなっている。(福井県農業試験場 7月10日公表)</p>
長野	<p>・肥料定点圃場のあきたこまち・美山錦は平年より5日、コシヒカリは平年より4日早く幼穂形成期を迎えた。生育は平年より4〜5日程度進んでいると思われる。7月15日現在の出穂期予測では、出穂期は「平年より3〜5日早い」と推定。あきたこまちは、7月中旬から下旬に出穂〜穂揃い期を迎えると思われる。コシヒカリでは、5月の連休中に田植えされたものは、7月末から出穂が始まると推定。(松本農業改良普及センター 平成27年作物技術普及情報第11号)</p>	<p>・7月中旬〜8月中旬の葉いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量は平年並〜やや多い、ニカメイチュウの発生量ははや少、ツマグロヨコバエ・セジロウカ・イネツトムシの発生量は平年並、イナゴ・カメムシ類の発生量は平年並〜やや多い予報。(長野県病害虫防除所 7月15日公表)</p>

	生育状況等	
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> 生育の遅延は平年並だが、気温の変動が激しく、日々変動している。莖数は平年に比べやや多いが、移植時期等による差は大きい。6月30日時点の生育状況は、草丈は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年よりやや短かく、莖数は「コシヒカリ」は平年よりやや多く、「秋の詩」は平年並であった。葉色および葉数は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年並であった。農業技術振興センターの「コシヒカリ」(5月11日移植)の幼穂形成期は7月5日。(滋賀県農業技術振興センター 7月8日付) (生育) 「みずかがみ」の生育状況(7月6日現在) <ul style="list-style-type: none"> 4月下旬移植は、出穂期は7月15日前後(13~17日)になると予想される。 5月上旬移植は、出穂期は7月20日前後(18~22日)になると予想される。 5月中旬移植の場合、出穂期は7月28日前後になると予想される。 5月下旬移植の場合、まもなく幼穂形成期を迎える見込みである。(滋賀県農業技術振興センター 7月8日付) 	<ul style="list-style-type: none"> 葉いもちと穂いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや多く、白葉枯病の発生量はやや少ない予報。ニカメイガ、セジロウカ、ヒメトビウカ、ツマグロヨコバエ、斑点米カメムシ類、イネモンジセリの発生量は平年並、フタオビコヤガの発生量はやや少ない予報。(滋賀県病害虫防除所 7月7日公表) 7月の葉いもちの発生時期・量は平年並、紋枯病の発生時期は平年並、発生量はやや多、コバネイナゴの発生時期はやや早く発生量はやや少、イネクワカメムシの発生量はやや少の予報(滋賀県病害虫防除所 6月23日公表) 近畿ではいもち病、イネミズゾウムシ、ヒメトビウカの発生がやや多いと予想(農林水産省 6月23日付)
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> 6月26日現在、県全体では、葉齢は平年並~やや進展が遅い、草丈は平年並~やや長い。莖数は平年よりやや少ない。県北では、葉齢は平年並。草丈はやや低い莖数は平年よりかなり多い。(兵庫県農政環境部 6月30日付) (生育) 	<ul style="list-style-type: none"> 近畿ではいもち病、イネミズゾウムシ、ヒメトビウカの発生がやや多いと予想(農林水産省 6月23日付) 向こう1か月間の発生量は、いもち病(葉いもち)は平年並、ヒメトビウカ(綿葉枯病)はやや多い、セジロウカ及びトビウカは平年並の予報(兵庫県病害虫防除所 6月8日公表)
岡山		<ul style="list-style-type: none"> 7月の綿葉枯病の発生量はやや多、葉いもち、穂いもち、紋枯病の発生は平年並の予報。斑点米カメムシ類の発生量は少なく、ヒメトビウカ、ニカメイガは平年並、ツマグロヨコバエは少なく、セジロウカはやや少ない予報。(岡山県 7月1日公表)
広島		<ul style="list-style-type: none"> 7月の葉いもちの発生量は中北部でやや多く、南部では平年並、セジロウカは平年並、斑点米カメムシ類はやや少ない予報。(広島県西部農業技術指導所 7月10日付)
山口	<ul style="list-style-type: none"> (生育) ・JAあぶらんど萩管内では、7月11日に早期栽培のコシヒカリで出穂を確認。本年は生育が順調に済み、昨年よりも3日早い出穂。このコシヒカリの新米は8月下旬には県内量販店の店頭に並ぶ予定。(やまぐち農林水産ネット 7月17日付) 	<ul style="list-style-type: none"> トビウカについては、本年は発生密度が低く、このまま推移すれば防除の必要性は低い。(山口県病害虫防除所 平成27年7月17日公表) 7月の葉いもちの発生量はやや多、紋枯病は平年並の予報。斑点米カメムシ類、コバネイナゴ、トビウカは平年並、セジロウカ、ヒメトビウカはやや少の予報。(山口県病害虫防除所 7月1日公表)
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> (生育) ・7月は、5月以降に田植えした種早生品種のコシヒカリ、あきたこまちは種肥の時期にあたる。その適期を、幼穂長を目安に判断するよう指導。普通期水稲では浅水管理を基本とし、根の健全化を図るよう指導。(愛媛県農林水産研究所 7月2日公表) 	<ul style="list-style-type: none"> 四国では、いもち病の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月14日公表) 7月のいもち病の発生量は平年並~やや多。紋枯病はやや少~平年並の予報。斑点米カメムシ類の発生量は平年並~やや多く、イネツトムシは平年並、セジロウカ、コバネイナゴはやや少の予報。(愛媛県病害虫防除所 7月2日公表)
高知	<ul style="list-style-type: none"> 7月9日現在 (生育) ・早期稲 <ul style="list-style-type: none"> 出穂期は、4月6日植え南国そがちは6月18日、4月6日植えコシヒカリは6月29日、4月14日植えコシヒカリは7月5日。いずれの品種、作型とも平年より1~3日早くなっている。ただし、出穂前後の低温寒害のため、「出穂始め」~「穂揃期」までの期間が長くなっている。 普通期稲 <ul style="list-style-type: none"> 移植後、低温寒害で経過したため、平年より草丈が低く、莖数は少なく、生育進度(葉齢)が遅れている。(高知県農業技術センター 7月16日付) 	<ul style="list-style-type: none"> 早期稲(種ばらみ期~乳熟期)の斑点米カメムシ類の発生状況について県中西部で少発生、西部は平年並の発生であったが、東部、中央部では多発生であり発生密度の高いほ場も見られた。(高知県病害虫防除所 7月17日公表) 四国では、いもち病の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月14日公表) 7月(早期稲)いもち病の発生量は西部では平年並~やや多であるが、それ以外の地域では多い予報。(普通期稲)いもち病の発生量は東部ではやや少ないがそれ以外の地域では多い予報(高知県病害虫防除所 7月3日公表)
福岡	<ul style="list-style-type: none"> (生育) ・普通期水稲は、6月10日移植の夢つくしでは、草丈は平年より5%低く、主稈葉数は平年並みで、莖数は平年に比べ9%多い。6月19日移植のヒノカリでは、草丈は平年並~10%高く、莖数は平年並で、主稈葉数は0.2~0.3葉少なく、生育はやや遅れている。(福岡県農林業総合試験場 7月17日付) 早期水稲(コシヒカリ、夢つくし)の生育は順調で、中干し時期を迎えている。病害虫の発生は少なく、出穂期は平年より2~3日早い7月中旬の見込み。(福岡県農林業総合試験場 6月15日付) 	<ul style="list-style-type: none"> 九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月14日公表) 水稲の葉いもちの発生状況について、県内の中山間地を中心に葉いもちの発生が例年より早い時期から確認されており、一部多発しているほ場がみられる。(福岡県病害虫防除所 7月14日付) セジロウカの発生量は少なく、トビウカは平年並の予報。(福岡県病害虫防除所 7月1日付)
熊本		<ul style="list-style-type: none"> 九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月14日公表) 7月早期水稲 <ul style="list-style-type: none"> 穂いもちの発生量はやや多、早植え水稲の葉いもちの発生量はやや多、セジロウカの発生量は平年並の予報。 普通期水稲 <ul style="list-style-type: none"> 葉いもちの発生量はやや多、セジロウカの発生量は平年並の予報。(熊本県病害虫防除所 6月30日公表)

生育状況等	
宮 崎	<p>・早期水稲 登熟期～成熟期にある。今年は長期間の低温・日照不足で稲が軟らかく根の活力も低下しているため、倒伏や登熟不良などの被害が発生しやすい状況にある。</p> <p>・普通期水稲 分けつ期～幼穂形成期にある。 (宮崎県農業支援課 7月14日付)</p> <p>・平成27年度早期米生育状況 (6月下旬) 早期米の生育状況は、幼穂形成期～出穂期を迎えている。平年より、生育進捗が早く推移している。5月は降水量も少なく、日照時間が多かったため、生育スピードが速まったが、6月上旬に降水量が平年よりも多く、全体的に日照時間が少なく推移しているが、依然生育進捗は早く、順調に生育している。 (JA宮崎経済連ホームページ 7月6日付)</p> <p>・「宮崎県産早期米産地情報」6月15日現在の生育ステージ (県全体) 幼穂形成期～出穂期。草丈が平年並、茎数はやや少なく、葉数はやや少なく、生育進捗は早い。6月上旬が平年より降水量が多く、日照時間が少なく推移したが、影響はほとんどなく順調に生育している。出穂期は早いところで6月17日頃、遅いところでも6月末頃とやや早い進捗で生育している。</p> <p>(中部地区) 穂ばらみ期～出穂期。生育は平年より5日早い。6月上旬の平均気温は、ほぼ平年並みで推移し、降水量は平年を大きく上回っており、日照時間はやや少なめで推移している。平年に比べ草丈がやや長く、茎数や葉数はやや少なくなっている。出穂最盛期は、6月20日頃と見込まれる。</p> <p>(南那珂地区) 穂ばらみ～出穂期。生育は平年より5日早い。降水量が平年よりも多く、日照時間が少なかったが、5月の気象条件がよかったため、生育は順調。予想出穂期は6月17日頃と見込まれる。</p> <p>(児湯地区) 幼穂形成期～出穂期。生育は平年より3日程早い。日照時間が少なく、降水量が多く推移し、平均気温もやや低めだが、5月の気象条件がよかったため、生育は順調。出穂最盛期は6月21日頃と見込まれる。</p> <p>(東臼杵南部地区) 幼穂形成期～減数分裂期。生育は平年より3日程早い。生育は良好であり、平年より草丈は長く、茎数も平年より多い状況。幼穂長は管内平均5.0cmとなっており、6月下旬頃が出穂であると思われる。 (JA宮崎経済連ホームページ 7月6日付)</p>
鹿 児 島	<p>・九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・7月の病害虫の発生予報 早期水稲 いもち病：多、紋枯病：平年並、ツマグロヨコバイ：やや多、セジロウカ：やや多、ヒメトビウカ：やや少、斑点米カメムシ類：平年並 普通期水稲 いもち病：やや多、ツマグロヨコバイ：やや少、セジロウカ：やや多、ヒメトビウカ：平年並、スクミリンゴガイ：平年並 (宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月29日公表)</p>
	<p>・九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月14日公表)</p> <p>・本年6月2日の九州南部の梅雨入り以降、7月9日までの水稲海外飛来性害虫の飛来及び発生状況(普通期稲) (セジロウカ) 平年に比べてやや高い (トビウカ) 今後、本種の増殖が懸念 (コブメイガ) 平年よりやや低い状況 (鹿児島県病害虫防除所 7月13日公表)</p> <p>・7月 早期水稲 いもち病の発生量はやや多く、斑点米カメムシ類は平年並、紋枯病は少ない予報。 普通期水稲 いもち病の発生量はやや多い予報 (鹿児島県病害虫防除所 6月30日公表)</p>

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から採録。

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標					収穫量（主食用） 26年産	作況指数 26年産
		参考			自主的取組参考値（深堀）			
		平成27年産	前年産との比較	増減率				
		↑	↓	%	↑	↓		
全 国	<p>（7月18日～8月17日の見通し）</p> <ul style="list-style-type: none"> 北・東・西日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性がある。北・東日本では、向こう1か月の気温も高い。東日本日本海側では、向こう1か月の日照時間は多く、降水量は少ない。北日本や東日本太平洋側、西日本では向こう1か月の日照時間は平年並が多い見込み。（気象庁 7月16日発表） エルニーニョ現象が続いている。今後、冬にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い。（気象庁 7月10日公表） <p>（7～9月の3か月間の見通し）</p> <ul style="list-style-type: none"> 気温は、北・東・西日本では、ほぼ平年並の見込み。 降水量は、北日本ではほぼ平年並、東・西日本では平年並が多い見込み。（気象庁 6月24日発表） 	7,510,000	▲ 140,000	▲ 1.8	7,390,000	7,882,000	101	
北 海 道	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の7月18日～8月17日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性がある。平均気温は高く、日照時間は平年並か少なく、降水量は平年並が多い見込み。（札幌管区気象台 7月16日発表） 	547,330	▲ 6,810	▲ 1.2	538,580	597,200	107	
青 森	<ul style="list-style-type: none"> 東北地方の7月18日～8月17日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性がある。平均気温は高く、日照時間は平年並か少なく、降水量は平年並が多い見込み。（仙台管区気象台 7月16日発表） 	242,460	▲ 4,540	▲ 1.8	238,580	257,400	104	
岩 手	同上（仙台管区気象台 7月16日発表）	271,210	▲ 4,330	▲ 1.6	266,880	287,700	105	
宮 城	同上（仙台管区気象台 7月16日発表）	348,620	▲ 14,010	▲ 3.9	343,050	379,600	105	
秋 田	同上（仙台管区気象台 7月16日発表）	417,540	▲ 15,500	▲ 3.6	410,860	453,000	104	
山 形	同上（仙台管区気象台 7月16日発表）	344,500	▲ 14,070	▲ 3.9	338,990	380,700	105	
福 島	同上（仙台管区気象台 7月16日発表）	339,550	▲ 8,870	▲ 2.5	334,130	350,600	104	
茨 城	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の7月18日～8月17日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性がある。平均気温は高く、平均気温は日照時間はほぼ平年並、降水量は平年並が多い見込み。（気象庁 7月16日発表） 	337,370	▲ 4,180	▲ 1.2	331,980	396,200	105	
栃 木	同上（気象庁 7月16日発表）	298,690	▲ 10,640	▲ 3.4	293,920	313,700	100	
埼 玉	同上（気象庁 7月16日発表）	151,270	▲ 1,410	▲ 0.9	148,850	169,800	102	
千 葉	同上（気象庁 7月16日発表）	246,490	▲ 2,790	▲ 1.1	242,550	325,300	104	
新 潟	<ul style="list-style-type: none"> 北陸地方の7月18日～8月17日の1か月間は、平均気温は高く、日照時間は多く、降水量は少ない見込み。（新潟地方気象台 7月16日発表） 	521,290	▲ 14,350	▲ 2.7	512,960	576,000	101	
富 山	同上（新潟地方気象台 7月16日発表）	185,650	▲ 6,690	▲ 3.5	182,680	193,100	101	
石 川	同上（新潟地方気象台 7月16日発表）	123,630	▲ 2,770	▲ 2.2	121,650	123,400	98	
福 井	同上（新潟地方気象台 7月16日発表）	125,460	▲ 2,670	▲ 2.1	123,460	126,000	98	
長 野	<ul style="list-style-type: none"> 関東甲信地方の7月18日～8月17日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性がある。平均気温は高く、平均気温は日照時間はほぼ平年並、降水量は平年並が多い見込み。（気象庁 7月16日発表） 	194,000	▲ 2,640	▲ 1.3	190,900	195,800	96	

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t		%		t	
滋 賀	・近畿地方の7月18日～8月17日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性がある。平均気温は高く、日照時間はほぼ平年並、降水量は平年並が多い見込み。（大阪管区気象台 7月16日発表）	160,450	▲ 2,930	▲ 1.8	157,880	157,100	97
兵 庫	同上（大阪管区気象台 7月16日発表）	180,440	▲ 1,490	▲ 0.8	177,560	177,800	97
岡 山	・中国地方の7月18日～8月17日の1か月間は、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性がある。平均気温は平年並か高く、日照時間はほぼ平年並、降水量は平年並が多い見込み。（広島地方気象台 7月16日発表）	158,550	▲ 1,640	▲ 1.0	156,020	153,300	94
広 島	同上（広島地方気象台 7月16日発表）	129,970	▲ 160	▲ 0.1	127,890	123,300	95
山 口	・九州北部地方（山口県含む）の7月18日～8月17日の1か月間は、平均気温と降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。（福岡管区気象台 7月16日発表）	108,760	▲ 2,060	▲ 1.9	107,020	103,800	96
愛 媛	・四国地方の7月18日～8月17日の1か月間は、平均気温は平年並か高く、日照時間はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。（高松地方気象台 7月16日発表）	73,920	▲ 570	▲ 0.8	72,740	73,000	98
高 知	同上（高松地方気象台 7月16日発表）	50,070	20	0.0	49,270	55,600	95
福 岡	・九州北部地方（山口県含む）の7月18日～8月17日の1か月間は、平均気温と降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。（福岡管区気象台 7月16日発表）	182,470	▲ 1,910	▲ 1.0	179,550	176,400	96
熊 本	同上（福岡管区気象台 7月16日発表）	189,310	▲ 610	▲ 0.3	186,290	180,500	97
宮 崎	・九州南部地方の7月18日～8月17日の1か月間は、平均気温と降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。（鹿児島地方気象台 7月16日発表）	93,600	▲ 870	▲ 0.9	92,100	84,600	98
鹿 児 島	同上（鹿児島地方気象台 7月16日発表）	111,070	▲ 470	▲ 0.4	109,290	102,300	95

参考資料:

平成27年産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)
平成26年産水陸稲の収穫量(農林水産省)
平成27年度病害虫発生予報第3号(農林水産省)

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月17日)、農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月17日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月17日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月17日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月17日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月17日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月17日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道釧路総合振興局 7月17日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道十勝総合振興局 7月17日)、農作物生育状況調査の概要 7月15日現在(北海道釧路振興局 7月17日)、農作物の生育と農作業の進捗状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月17日)、病害虫発生予察情報第6号7月予報(北海道病害虫防除所 6月30日)、作況調査報告(7月10日現在)(青森県産業技術センター・農林総合研究所 7月10日)、稲作生産情報第5号(青森県 7月3日)
平成27年度病害虫発生予報第4号(7月予報)(青森県病害虫防除所 7月2日)、
平成27年度水稲生育定期調査結果 No.5(7月15日現在)(岩手県農業研究センター 7月17日)、
平成27年度病害虫防除速報No.7(水稲編-4.5(岩手県病害虫防除所 7月13/16日)、平成27年度病害虫発生予察情報発生予報第4号(岩手県病害虫防除所 6月30日)、
平成27年産水稲の生育状況について(7月10日現在)(宮城県農林水産部 7月13日)、
平成27年産仙南稲作情報(第5号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月16日)、仙台稲作情報第4号(仙台農業改良普及センター 7月15日)、
平成27年産産稲作技術情報第7号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月14日)、平成27年産釜里地区の稲作情報第6号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月13日)、
栗原の稲作通信平成27年第5号(栗原農業改良普及センター 7月14日)、登米地域の稲作通信第6号(登米農業改良普及センター 7月10日)、
稲作情報Vol.5(石巻農業改良普及センター 7月15日)、稲作情報Vol.7(本吉農業改良普及センター 7月13日)、
平成27年度稲作情報第2号(亶理農業改良普及センター 6月17日)、
平成27年度発生予察情報発生予報第6号(概要版)(宮城県病害虫防除所 7月7日)、平成27年度発生予察情報注意報第2号(宮城県病害虫防除所 7月3日)、
平成27年度発生予察情報発生予報第5号-水稲-(宮城県病害虫防除所 6月23日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」http://www.e-komachi.jp/ 7月17日)、
平成27年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第3号(7月予報)(秋田県病害虫防除所 6月25日)、

米づくり技術情報NO.5(山形県産米ブランド推進課 7月13日)、稲作だより第9号(最上総合支庁 7月15日)、つや姫情報第3号(最上総合支庁 7月2日)、
酒田鮎海日本一米づくりの情報第8報(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月13日)、酒田鮎海つや姫情報第6号(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月13日)、
つや姫だより第6号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月13日)、
つや姫通信第4号(村山総合支庁農業技術普及課 7月10日)、おいしい米づくり情報第7号徳肥圃(村山総合支庁農業技術普及課 7月3日)、
おきたま米づくり情報No.6(置賜総合支庁産業経済部西置賜農業技術普及課 7月3日)、
稲作だより第6号徳肥圃・つや姫だより第5号(村山総合支庁産業経済部 北村山農業技術普及課 7月7日)、
平成27年度農作物有害動植物発生予察情報発生予報第4号(7月)(山形県病害虫防除所 7月1日)、

主要な農作物の生育情報平成27年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、郡山市農作物生産対策協議会(郡山市園芸畜産振興課 6月26日)、
稲作情報平成27年度第3号(福島県喜多方農業普及所ほか 6月5日)、平成26年度病害虫発生予察情報注意報第4号(福島県病害虫防除所 6月30日)、
農研速報(水稲の生育状況)(7月10日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター-農業研究所作物研究室 7月7日)、
農研速報(水稲の生育状況)(6月26日現在、龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター-農業研究所作物研究室 6月30日)、

病害虫発生予報7月号(茨城県病害虫防除所 7月2日)、病害虫速報No.3(茨城県病害虫防除所 6月18日)、
平成27年度水稲生育診断予測事業速報No.3(栃木県 6月30日)、平成27年度病害虫発生予報第4号(栃木県農業環境指導センター 7月17日)、
平成27年度病害虫発生予報第3号(栃木県農業環境指導センター 6月19日)、
平成27年度水稲の生育概況vol.2(埼玉県 7月7日)、平成27年度病害虫発生予報第3号(7月予報)(埼玉県病害虫防除所 6月29日)、
水稲の生育状況と当面の対策第4報(千葉県農林水産部 7月15日)、平成27年度病害虫発生予報第3号(千葉県病害虫防除所 6月10日)、
水稲の生育状況と今後の管理対策第5号(新潟県農林水産部 7月10日)、水稲の生育状況(新潟米情報センター 7月13日)、
岩船米生育速報(7月21日現在)(村上農業普及指導センター)、新発田地域水稲育成速報No.6(新発田農業普及指導センター 7月21日)、
新潟稲作速報No.6(新潟農業普及指導センター 7月21日)、稲作技術情報No.5-水稲生育速報No.5(新潟農業普及指導センター 7月10日)、
FAX稲作速報(三条農業普及指導センター 7月21日)、FAX稲作速報(追加情報)(三条農業普及指導センター 7月1日)、
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 7月21日)、稲作情報No.8(南魚沼農業普及指導センター 7月21日)、
稲作管理情報(6年産農業普及指導センター 7月22日)、緊急稲作情報(十日町地域振興局農業振興部 7月16日)、
水稲生育速報(7月21日)(上越農業普及指導センター)、平成27年度糸魚川米売れ米づくり水稲生育情報No.5(糸魚川農業普及指導センター 7月10日)、
平成27年度 稲作生育速報No.4(佐渡農業普及指導センター 6月30日)、

稲作情報(A)北魚沼・魚沼農業普及指導センター 6月10日付)、水稲生育速報(巻農業普及指導センター 6月30日)、

平成27年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第5号(7月後半の発生予想)(新潟県病害虫防除所 7月16日)、

TACS情報第9号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月21日)、直播情報第6号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月17日)、
病害虫発生予報第4号(富山県農林水産総合技術センター 7月1日)、
平成27年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-8号)(石川県農林総合研究センター 7月17日調査)、
平成27年度病害虫発生予報第4号(石川県農林総合研究センター 7月8日)、
稲作情報No.11(福井県水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月17日)、平成27年農作物病害虫発生予察予報第5号(福井県農業試験場 6月30日)、
病害虫防除だよりNo.292(福井県農業試験場 7月10日)、
平成27年度技術普及情報第11号(長野県松本農業改良普及センター)、病害虫発生予報第4号(長野県病害虫防除所 7月15日)、
平成27年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月8日)、平成27年病害虫発生予報第6号(滋賀県病害虫防除所 7月7日)、
平成27年病害虫発生予報第5号(滋賀県病害虫防除所 6月23日)、
平成27年度兵庫県農業気象技術情報第3号(7月情報)について(兵庫県農政環境部 6月30日)、平成27年度病害虫発生予察予報第2号(兵庫県病害虫防除所 6月8日)、
平成27年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 7月1日)、
平成27年度広島県病害虫発生予察情報予報第3号(広島県西部農業技術指導所 7月10日)、
山口農林水産ネット新着ニュース(やまぐち農林水産ネット 7月17日)、平成27年度農作物病害虫発生予察技術資料第4号(山口県病害虫防除所 7月17日)、
気象情報に基づく技術対策・作物(愛媛県農林水産研究所 7月2日)、病害虫発生予報(7月)(愛媛県病害虫防除所 7月2日)、
平成27年度における水稲の生育状況(7月9日時点)(高知県)
平成27年度病害虫発生予察予報第4号(7月)(高知県病害虫防除所 7月3日)、
平成27年度農作物病害虫発生予察技術資料第2号(高知県病害虫防除所 7月17日)
福岡県の主な農作物の生産状況(福岡県農林業総合試験場 6月15日)、平成27年度病害虫発生予報第4号(7月)(福岡県病害虫防除所 7月1日)、
福岡県米麦大豆生育情報(普通期水稲の生育概況と対策)(福岡県農林業総合試験場 7月17日)、技術情報第6号(福岡県農林業総合試験場 7月14日)
平成27年度病害虫発生予報第4号(7月予報)(熊本県病害虫防除所 7月1日)、
台風11号事前事後対策について(宮崎県富農支援課 7月14日)
平成27年産早期米生育状況・平成27年産宮崎県産早期米産地情報(平成27年6月15日現在)(宮崎経済連ホームページhttp://www.niwayaki-cha.jp/kome/index.html 7月6日)
平成27年度技術情報第7号(鹿児島県病害虫防除所 7月13日)
平成27年度病害虫発生予報第4号(鹿児島県病害虫防除所 6月30日)

全般予報向こう1か月の天候の見通し(気象庁)

北海道地方向こう1か月の天候の見通し(札幌管区气象台)、東北地方向こう1か月の天候の見通し(仙台管区气象台)、関東甲信地方向こう1か月の天候の見通し(気象庁)、
北陸地方向こう1か月の天候の見通し(新潟地方气象台)、近畿地方向こう1か月の天候の見通し(大阪管区气象台)、中国地方向こう1か月の天候の見通し(広島地方气象台)、
四国地方向こう1か月の天候の見通し(高松地方气象台)、九州北部地方向こう1か月の天候の見通し(福岡管区气象台)、九州南部・奄美地方向こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方气象台)、